

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／演習 C12 (Seminars C12)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	比較文化		
担当者名 (Instructor)	坂本 貴志(SAKAMOTO TAKASHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	GRL3810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

「自然史・博物学 Naturgeschichte」の東西

The seminar focuses on the Natural History in comparative methods.

授業の内容(Course Contents)

「自然史・博物学」とは、ヨーロッパでも日本でも、とりわけ 17 世紀から 18 世紀にかけて流行した、一種の百科全書的な知である。範囲は、宇宙の創造にはじまり、地球の歴史(地質学)、宗教とその歴史、地理学、植物・園芸(本草学)、動物・昆虫、これらを描写する絵画、詩・文学、音楽、医学、物理学、気象学と、結局は人間の関心の赴く対象全てである。なぜそれを「自然史・博物学」と呼ぶのかと問えば、そこには全体を見渡そうとする眼差しがあるためであり、これは、今日のネットワーク的な知と似た部分がある(、さらにまた、違う点は何かを発見するのがもうひとつのテーマとなる)。知の全域を対象とするので、参加者は自分なりの関心にもとづいて、かならず接点を見出すことができる。

To restructure the Natural History in Japan and Europe in 18th century and to compare thoughts and methods between both cultures.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション: 趣旨説明
2. 学生による発表
3. 学生による発表
4. 学生による発表
5. 学生による発表
6. 学生による発表
7. 中間検討会
8. 学生による発表
9. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 総合検討会
14. フィールドワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ヨーロッパ、あるいは日本の博物学(誌)に関して、個別のテーマ・項目に着目し、各人がレポートを作成し発表する。文献の利用方法は、C11 と同じで、2 年生は日本語文献のみで良く、3 年生以上はドイツ語など外国語文献からの引用による考察を含めた発表を行う。発表者の間でテーマは重なっても良いが、先行発表者の内容を必ず踏まえた、一種のリレー方式をとる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/授業への参加度(40%)/発表(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 西村三郎、1999、『文明のなかの博物学』、紀伊國屋書店
2. ジョスリン・ゴドウィン、1986、『キルヒャーの世界図鑑』、工作舎
3. ビュフォン、1991、『ビュフォンの博物誌』、工作舎

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)